

# P-V-94

## 当薬局グループにおける医療用抗原定性検査 (感染拡大傾向時の一般検査事業ならびに ワクチン検査パッケージ・対象者全員検査等促進事業) 実施期間の検査状況調査研究

福永雅史<sup>1)</sup> 白石貴裕<sup>1)</sup> 下川希世<sup>1)</sup> 園田恵菜<sup>1)</sup> 山下力<sup>1)</sup> 筑紫聡<sup>1)</sup> 東吉仁<sup>1)</sup> 本山 清行<sup>1)</sup> 泊晃弘<sup>1)</sup> 岡田幸二<sup>1)</sup>  
1) 株式会社 ユネット 清風薬局

### 【研究の目的】

### 【調査方法】

### 【清風薬局について】

感染拡大傾向時の感染に不安を感じる方や社会経済活動を行うに当たり陰性確認が必要な方への対応として熊本県では、令和3年12月29日から感染拡大傾向時の一般検査事業が、令和3年12月24日からワクチン検査パッケージ・対象者全員検査等促進事業

が始まった。それともない当薬局グループは、令和4年1月2日より人吉・球磨郡において検査実施事業者として抗原定性検査を行っている。今回、当初設定された無料検査実施期間に行われた検査実施状況を集計・分析することで県民にどのように利用されたかを調査し報告することとした。

調査方法：  
被験者へ検査申込書の記載を依頼した。  
その後検査を実施し、検査日や結果、検査数を記録した。  
検査申込書のデータと検査日、結果などのデータをまとめ傾向がないかを検討した。

調査データ収集期間：  
2022年1月2日から2022年2月13日  
調査に用いた抗原検査キット：  
チェックMR-COV19(meiji seikaファルマ製)



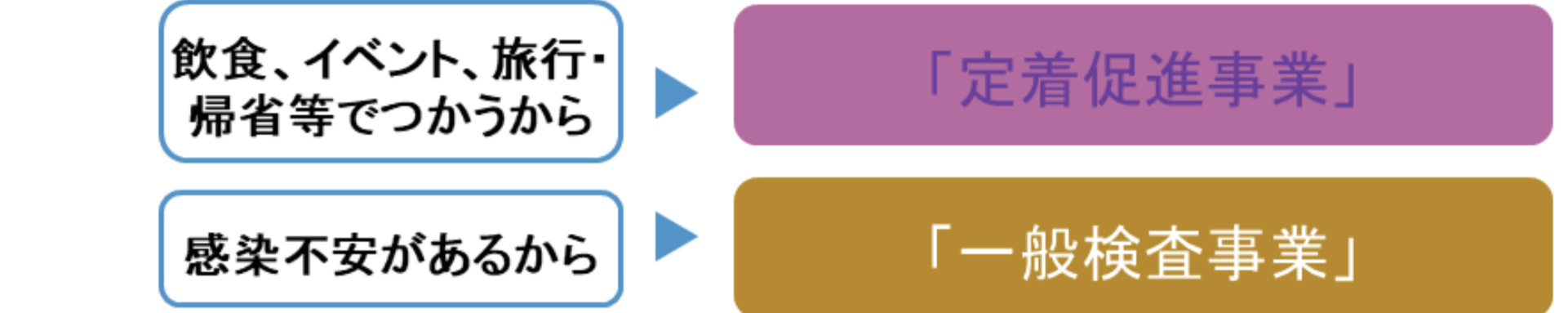
### 【検査キット:チェックMR-COV19(meiji seikaファルマ製)】

### 【抗原定性検査とPCR検査の違い】

### 【PCR検査等無料検査の概要】



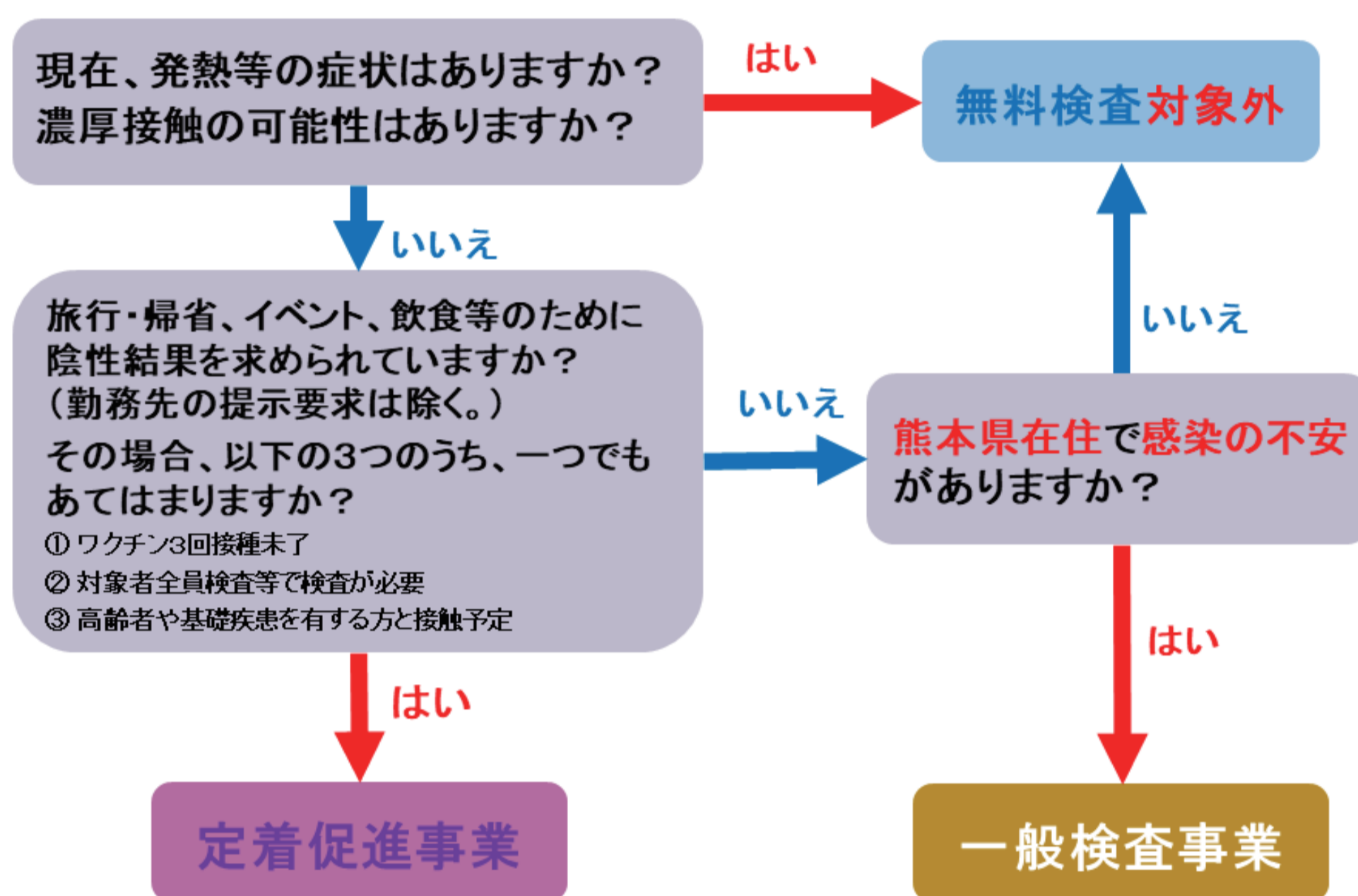
| 検査      | 抗原定性検査  | PCR検査              |
|---------|---------|--------------------|
| 方法      | 鼻ぬぐい液   | 唾液 or 鼻ぬぐい液        |
| 結果      | 15分～30分 | 数時間～2日<br>(検体運搬時間) |
| 結果の有効期限 | 採取日+1日  | 採取日+3日             |



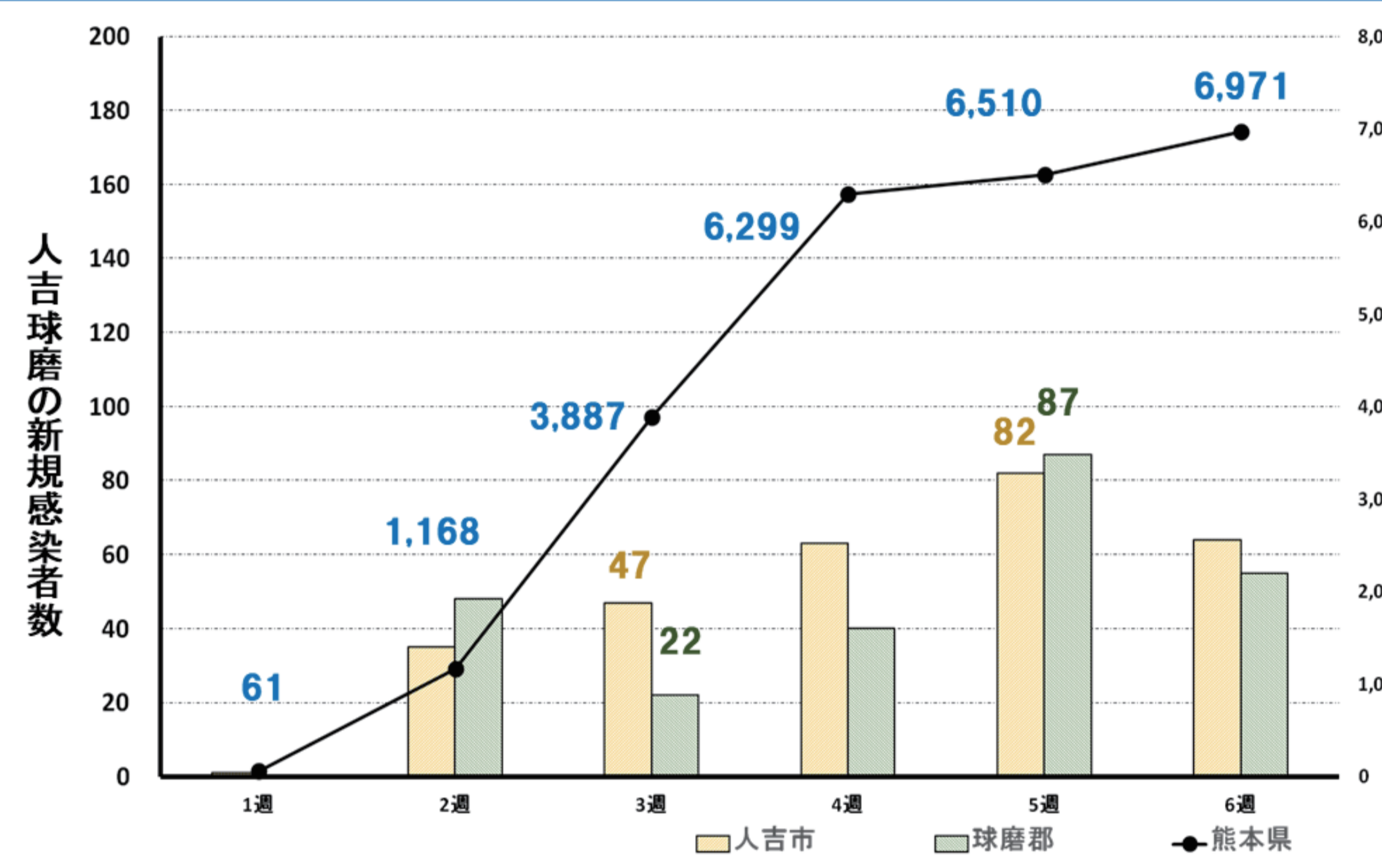
| 要件   | 検査を受ける都道府県の住民であること          |
|------|-----------------------------|
| 検査対象 | 感染が拡大傾向にあるときに、感染不安を感じる無症状の方 |
| 期間   | 令和3年12月29日から                |

チェックMR-COV19(meiji seikaファルマ製)を用いた。上記操作ガイド及び参考動画を検査対象者へ説明に用いた。

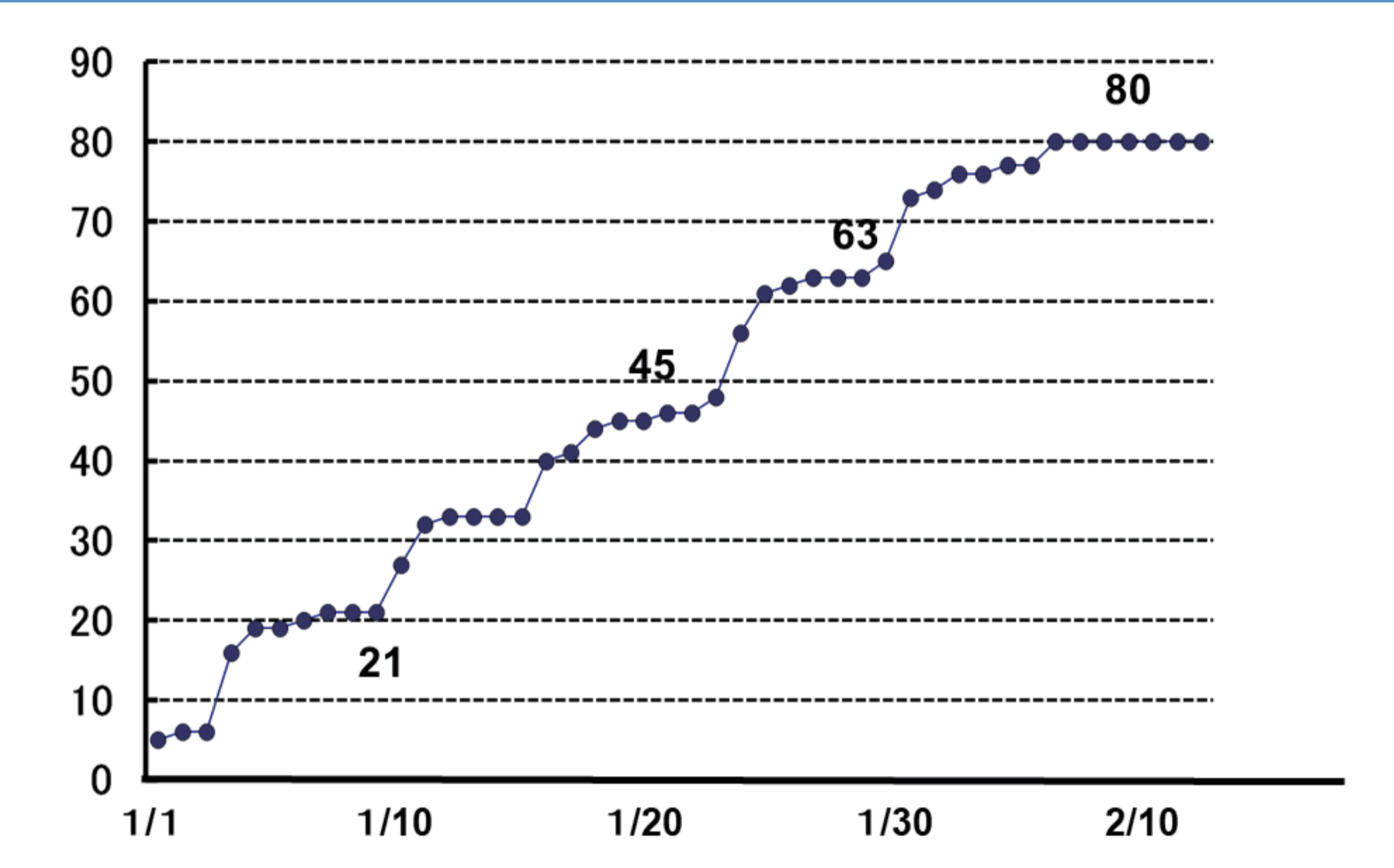
### 無料検査対象者確認フローチャート



### 【熊本県と人吉・球磨郡の新規感染者数】



### 【熊本県のPCR等無料化事業実施事業所数の推移】



### 抗原定性検査の結果

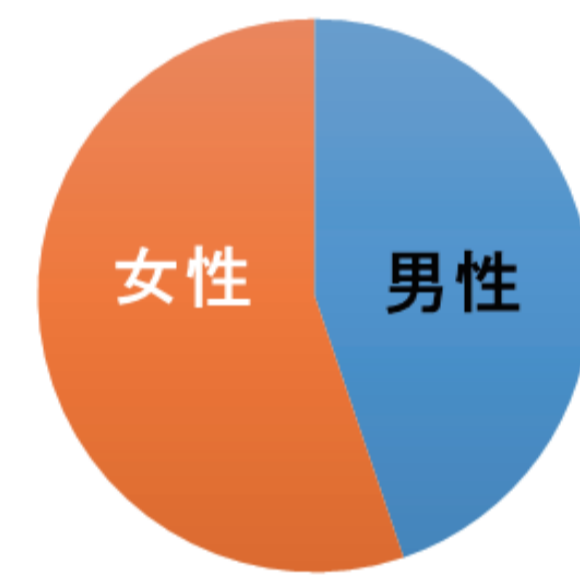
|    |      |
|----|------|
| 陽性 | 3名   |
| 陰性 | 697名 |

| 対象  | 検査日  | 年齢 | 性別 | 地域    | ワクチン |
|-----|------|----|----|-------|------|
| 対象1 | 1/22 | 10 | M  | 球磨村   | 無    |
| 対象2 | 1/29 | 17 | M  | あさぎり町 | 回答無  |
| 対象3 | 2/3  | 73 | M  | 錦町    | 回答無  |

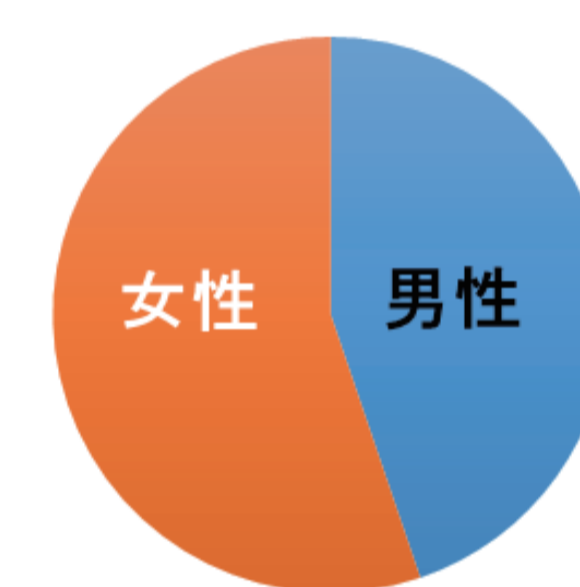
- ・期間中700件の検査で、陽性反応が出たのは3件だった。
- ・検査で陽性を検出した対象者は速やかに確定診断を行える医療機関を受診するよう誘導した。

### 【検査対象者男女割合】

| 検査対象者の性別と割合 | 割合      |
|-------------|---------|
| 男性          | 313 45% |
| 女性          | 386 55% |



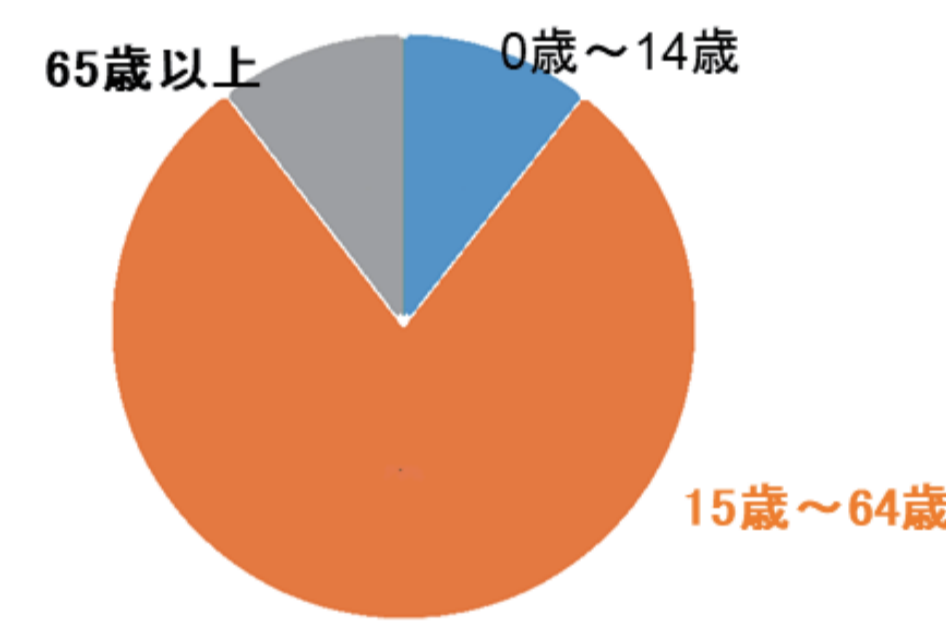
| 熊本県民の性別と割合 | 割合          |
|------------|-------------|
| 男性         | 817,447 47% |
| 女性         | 908,980 53% |



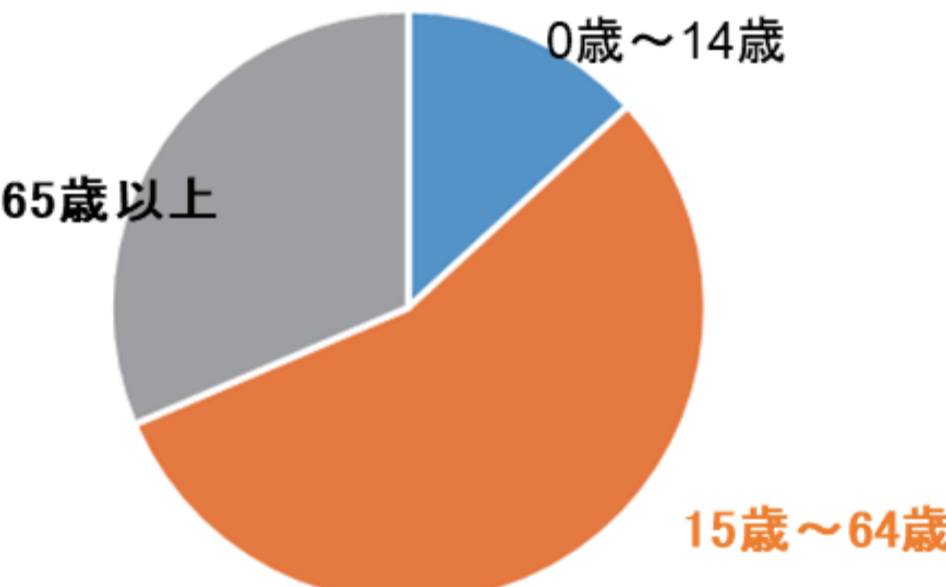
検査対象者の性別はほぼ県民割合と同じで偏りはなかった。

### 【検査対象者の年齢階級別割合】

| 検査対象者の階級別人数 | 人数  | 割合  |
|-------------|-----|-----|
| 0歳～14歳      | 74  | 11% |
| 15歳～64歳     | 553 | 79% |
| 65歳以上       | 73  | 10% |

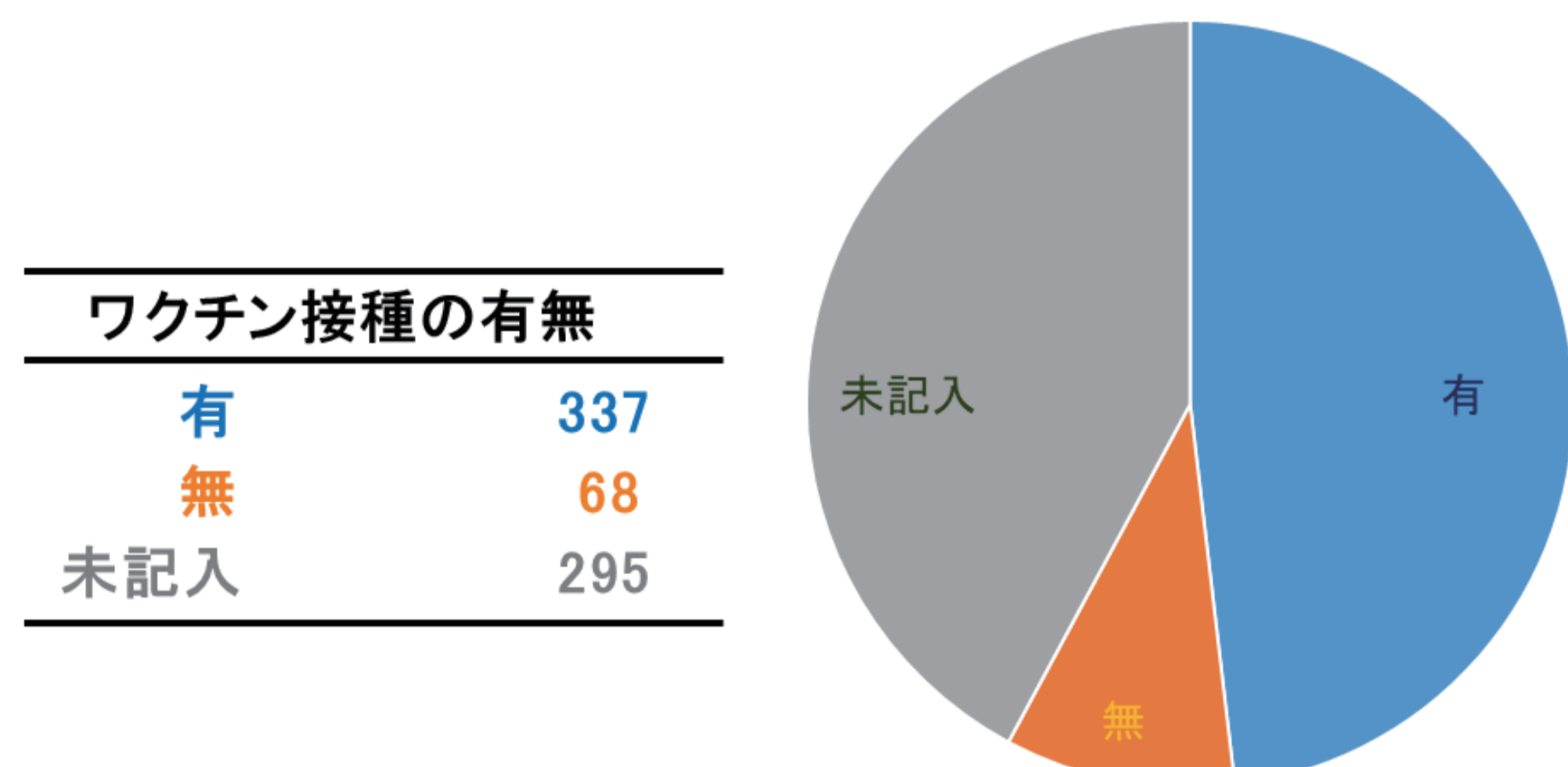


| 熊本県民の階級別人数 | 人数      | 割合  |
|------------|---------|-----|
| 0歳～14歳     | 229,016 | 13% |
| 15歳～64歳    | 963,053 | 55% |
| 65歳以上      | 546,232 | 31% |



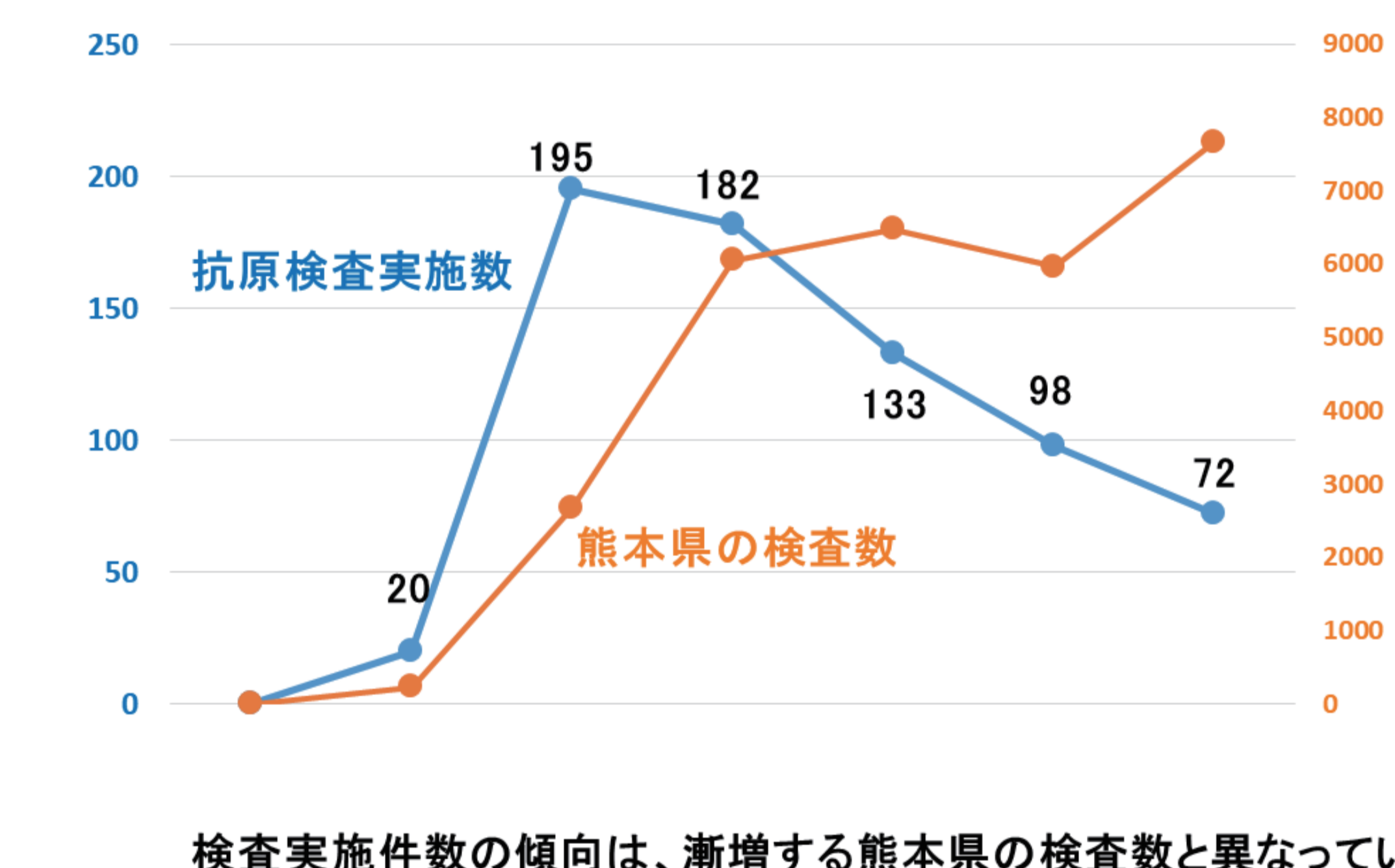
15～64歳の検査対象者割合は、熊本県人口構成と比べ高かった。

### 【コロナワクチン接種の有無】



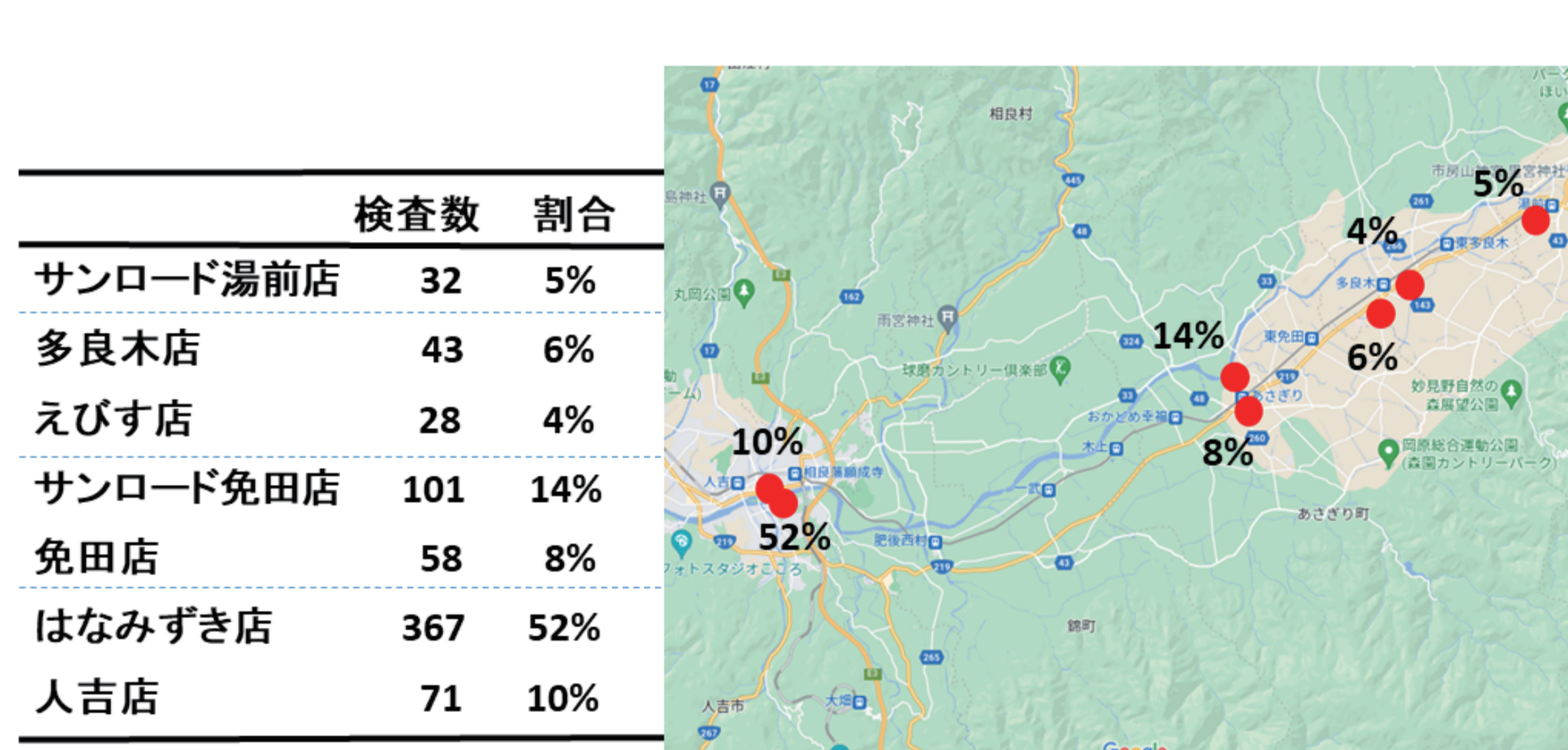
ワクチン接種の有無確認は、検査パッケージ・対象者全員検査等促進事業の対象者のみのため未記入が多かった。

### 抗原検査実施数と熊本県の検査数



検査実施件数の傾向は、漸増する熊本県の検査数と異なっていた。

### 【各店舗における検査応需状況】



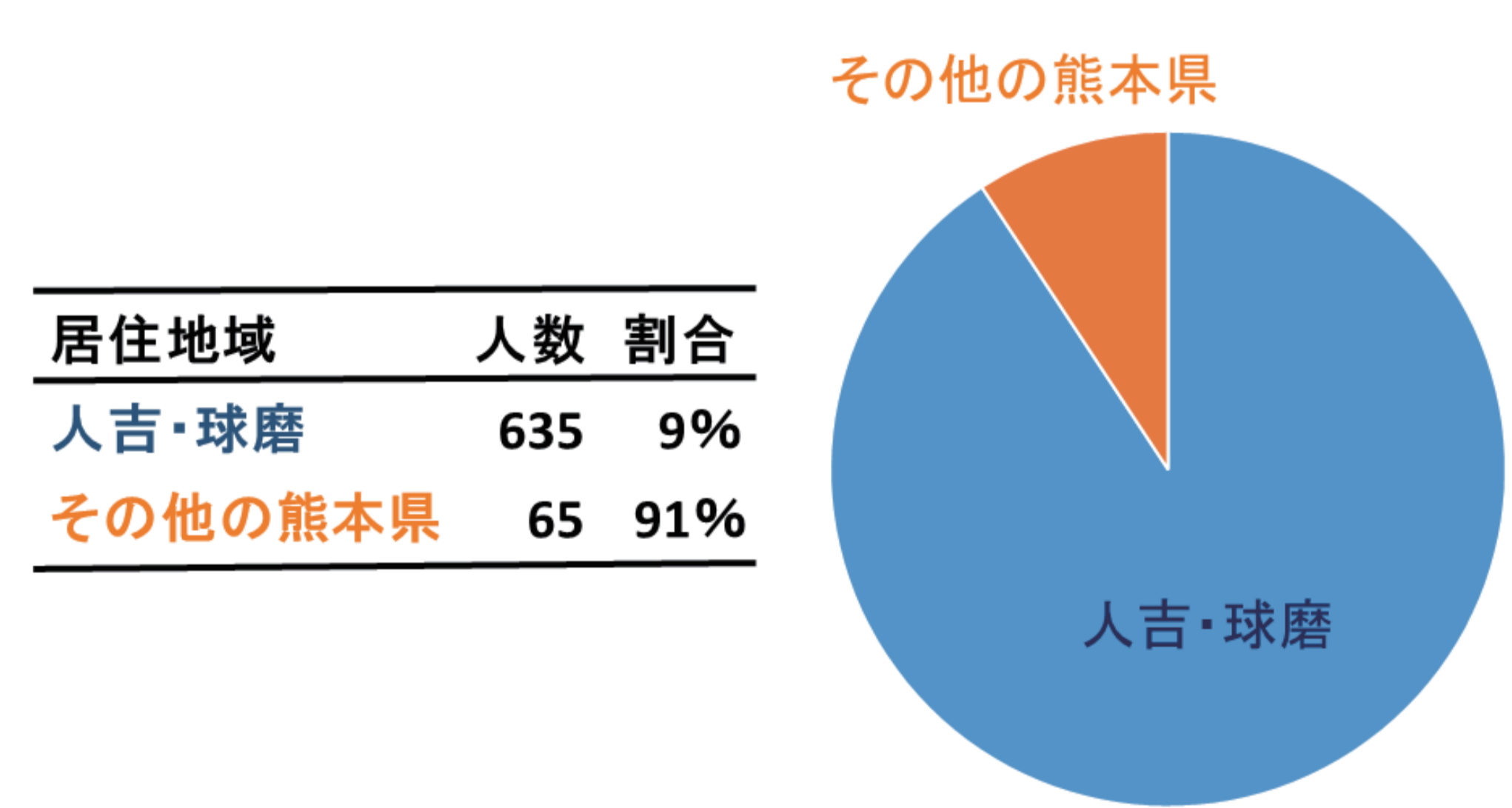
人吉地区が多く応需し、日曜日も開局し検査を実施していたはなみずき店が多かった。

### 人吉球磨における人口割合と検査者居住地割合

| 居住地         | 人口    | 割合  | 検査数 | 割合  |
|-------------|-------|-----|-----|-----|
| 熊本県人吉市      | 31176 | 37% | 224 | 35% |
| 熊本県球磨郡あさぎり町 | 14960 | 18% | 127 | 20% |
| 熊本県球磨郡多良木町  | 9171  | 11% | 56  | 9%  |
| 熊本県球磨郡湯前町   | 3711  | 4%  | 16  | 3%  |
| 熊本県球磨郡錦町    | 10417 | 12% | 88  | 14% |
| 熊本県球磨郡球磨村   | 3339  | 4%  | 13  | 2%  |
| 熊本県球磨郡相良村   | 4236  | 5%  | 52  | 8%  |
| 熊本県球磨郡山江村   | 3382  | 4%  | 41  | 6%  |
| 熊本県球磨郡五木村   | 1022  | 1%  | 2   | 0%  |
| 熊本県球磨郡水上村   | 2117  | 3%  | 16  | 3%  |

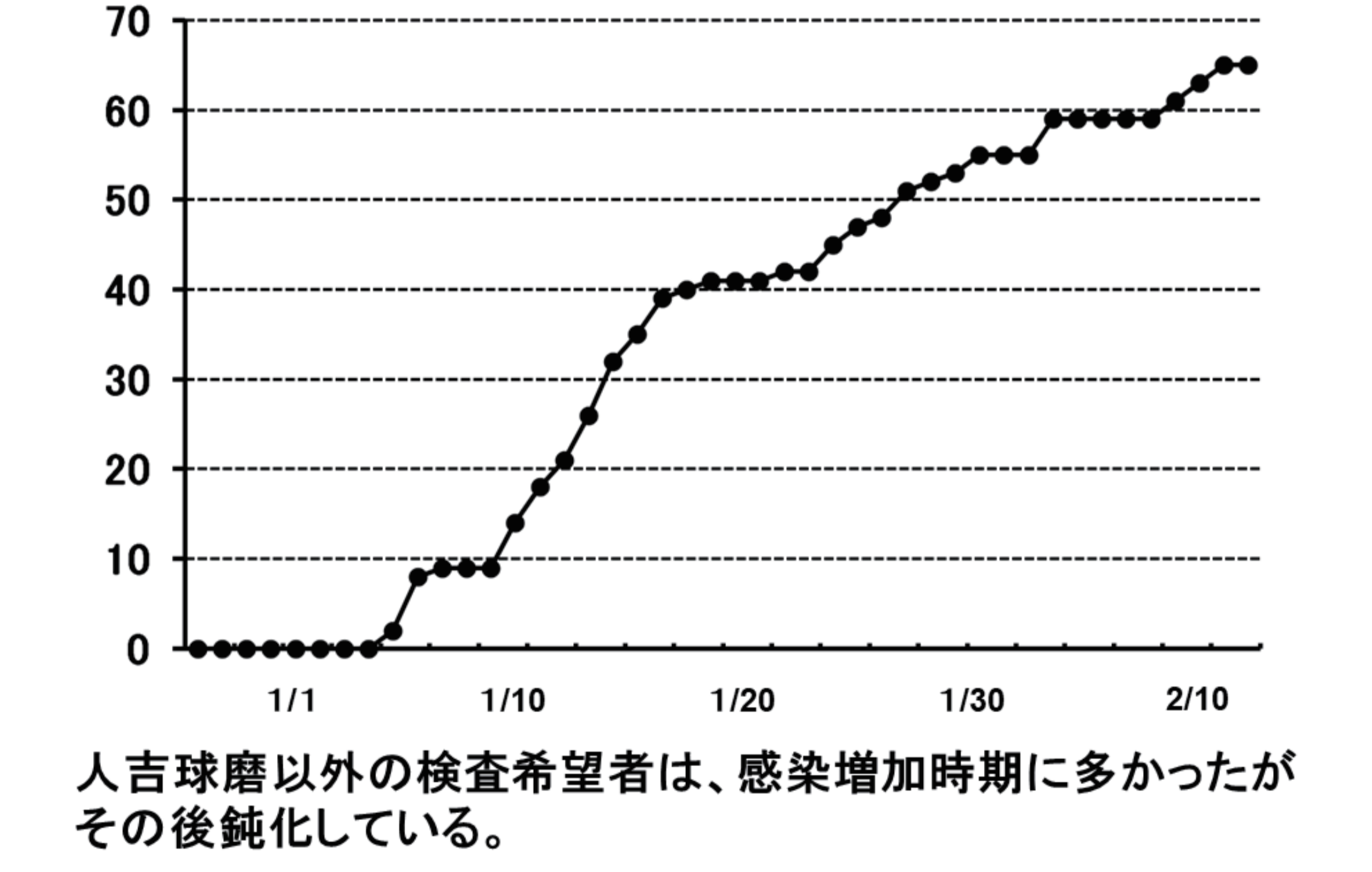
人吉・球磨地域の市町村別人口割合と検査対象者の居住地割合は類似しているように見えた

### 人吉球磨とその他の熊本県の検査対象者割合



検査対象者の居住地域は、9割が人吉・球磨だった。

### 人吉球磨以外からの検査希望数(累計)



人吉球磨以外の検査希望者は、感染増加時期に多かったがその後鈍化している。

### 結論・感想

### 課題

- ・今回、当薬局でおこなった抗原検査において、陽性反応は3件/700件と少なかった。これは、無料検査対象者が無症状であり、かつ濃厚接触者や家族に陽性者がいる方を対象外としている検査のためと思われる。
- ・検査件数は、感染者の増加とは比例せず後半減少したが、無料化事業実施事業所の増加、PCR検査希望者の増加、検査キットの供給遅延によるものと思われる。
- ・1月後半の納入スパンは最大で6日となり検査希望者へ対応できない日があった。
- ・抗原検査の取り組みは、確定診断を行う医療機関へ検査希望患者集中を避け、混乱を避けることができるため重要だと思われる。
- ・無料抗原検査は、感染後の無症状や症状改善後も抗原検査が陽性となる場合もあるため恣意的な判断による感染拡大を防ぐ意味で重要だと思われる。

- ・薬局の感染対策  
検査対応者の感染対策として、実施場所の実施毎の消毒は実施していたが、ガウン・手袋などの着用は行っていなかった。従事者に感染者は出ていないが、今後どこまで対策を行うべきか。
- ・他の業務と並行による負担増加  
地域住民の健康に寄与する取り組みではあるものの、純粋な業務量の増加により、通常の業務を圧迫した。
- ・検査希望者の検査に対する理解  
検査希望の電話の半分程度はPCR検査を希望する方だった。検出感度からPCRを希望したと思われるが、時間のかかるPCR検査と抗原定性検査の特徴を理解し選択しているかは不明だった。検査対応者も検査希望者も定着促進事業と一般検査事業の違いが分かりにくく、混乱した。